

昨夜のコロンビア号事故後再開第一号となるスペースシャトル「ディスカバリー」の打ち上げ成功に惜しめない拍手を送りたい。然し、それでも、センサー故障の原因説明が不十分な中でのある意味では見切り発車的な打ち上げには些か異論がない訳ではない。勿論報道の範囲内の情報しか持ちあわせていないので、安全面を無視した決断だったのではないか等と言う資格は毛頭ないし、言うべきでもない。本件は標題の「イージーな決断」とは全く関係ないので誤解ないようにお願いしたい。

台風7号は、NHKが大騒ぎして一日中報道していた割には何事もなく、過ぎ去り、朝など台風一過とは言い難い雲の多い天気であったが、昼には灼熱の太陽が照りつけ、戸外のウォーキングは熱中症にならぬ様に早めに切り上げざるを得なかった。

台風7号が東海から関東に上陸し、縦断するかも知れないとのことで、NHKなど一日中台風情報を流していた。先週末の13年ぶりの都内震度5強の地震の時も全く同じ状況であった。阪神淡路大震災のような大災害であれば、当然一日中被害の状況等を報道するのは公共放送機関の使命であろう。防災の為にも所要の台風情報等を提供するのは必要ではあるが、それは等しく全国民が必要としているものなのだろうか。勿論事態の切迫度や予想される被害の程度等に応じて適度な報道をすれば充分である。それを朝から晩まで一刻の休む間もなく報道している。多分報道しなかったら何故報道しないのか、報道機関の使命を何と心得るかと言うお叱りや非難が轟轟なのだろう。従って、いともイージーに非難をかわす為に日がな一日報道する羽目になる。

誰にどのような情報を如何に提供するかは極めて重要な判断事項ではある。防災関係者に必要な情報と一般国民に必要な情報と、被害を被る可能性の在る地域住民に提供する情報の質と量は当然異なる筈である。それを一律に報道することが問題なのだ。

台風と言うのは、北西太平洋で発生した熱帯低気圧の内中心付近の最大風速が風力8(風速17m/s)以上のものを言い、年平均27個程度発生すると謂れ、最多発生数は昭和42年(1967)の39個で、最小は、平成10(1998)の16個である。日本の上陸するのは、平均3個であると言う。然し、鹿児島生まれの私には以前はもっと数多くの台風が鹿児島を直撃したりして、停電は当然として学校が休みになったものだという記憶がある。家全体がギンギンと不気味な軋み音を発していたのを幼心にも怖がったものだ。良く潰されなかったものだ。朝早く起きて、庭の梨の木の下に駆け寄り落下した果実を拾ったものである。台風の目のことを知ったのもそういう幼き日々だったような気がする。あれほど荒れ狂った空が一面の青空と化し、太陽の光が燦燦と降り注いだ、その余りもの変化振りに自然の怖さと共に面白さをも感じた。僕等が小さい頃の台風には、ジェーンとか云々とか言うような聞きなれぬ洒落た名前がついていた。今考えると米国式の命名法であったようだ。それがあつた時期から、(日本に気象権とも言うべきものが返還されて以来)、伊勢湾台風とか室戸台風とか甚大な被害を及ぼした台風には日本式の名前が付けられたようだ。それが今では、味も素っ気もないが、単純に1月1日以降発生順に番号を付けることとなっている。最も平成12年以降、固有の名前が付けられるようになった。これは日本他14ヶ国が加盟する台風委員会が決定した140個の名前を順番に用いて固有名を命名することとなった。日本からは、テンビン、以下10個の星座名が登録されている。今回の7号の国際名は何だったろうか？ 「バンヤン」香港の木の名前だそうだ。

台風の寿命は5.3日、最長記録は19.25日だそうだ。

閑話休題

知ったからと言って何が出来る訳ではない、何かを判断する訳でも、処置する訳でもないのに、何でも知りたがる、人間って不思議な動物だ。知ったからと言って何となく安心する。情報の洪水・奔流に揉まれながら妙な安心感を持っている。自らが如何なる情報を欲しているのかを明確にして、その情報はどうすれば入手出来るのかを考えもしない。ヒステリックな国民に阿ることで自分達の使命を果たしていると思っているマスコミも悪い。

もっと悪口を言わせて貰えば、毒にも薬にもならない番組だから変更しようが何しようが大した問題ではない。人の弱みたる覗き見趣味を単に満足させるだけのワイドショー、芸術性もストーリーすらもないようなよろめきドラマ等が蔓延っているのだから、反って台風情報など健全なのだろう。 (了)